＜慢性疼痛の多面的評価すステムの開発と客観的評価法の確立に対する研究＞

第 1 回班会議　議事録

開催日時：2011 年 7 月 31 日（日）　14 時～16 時
開催場所：品川イーストワンタワー　ミーティングルームⅠ
出席者（敬称略）
　　倉田二郎、大城宜哲、三木大輔、齋藤　繁、福井　聖、井上　玄
　　西原真理、竹林庸雄、矢吹省司、川上　守、安達伸生、川口　浩、松本守雄、住谷昌彦
　　紺野愼一、関口美穂、二階堂琢也、井川真知子
欠席者（敬称略）
　　なし
議題
Ⅰ．研究内容の検討
1．慢性疼痛と難治性疼痛の定義について
2．痛みの程度の評価について
3．神経障害性疼痛のスクリーニングの評価について
4．心理的因子の評価について
5．社会的因子の評価について
6．QOL **の評価について**
7．脳機能画像による評価について
8．電気生理学的診断による評価について
9．慢性疼痛の多面的評価システムの構築について
Ⅱ．今後の予定
内容
Ⅰ．研究内容の検討

1．慢性疼痛と難治性疼痛の定義に関し以下のことが討議された。
・慢性疼痛の定義は、「発症から 3 ヵ月以上持続する疼痛（NRS1 **以上で痛みの程度は問わない）」とする。**
・難治性疼痛の定義は、NRS **の程度、持続期間、医療機関への通院期間などについて今後検討する。**

2．痛みの程度の評価について以下のことが討議された。
・国際的に頻用されている方法で、結果を評価しやすい NRS **を使用するなど、根拠のある方法を選択する。**
・McGill pain Questionnaire **の使用について検討する。**

3．神経障害性疼痛のスクリーニングの評価について以下のことが討議された。
・LANSS、pain DETECT **などの神経障害性疼痛の診断サポートツールから臨床上、最も有用なツールを決定する。**

4．心理的因子の評価について以下のことが討議された。
・臨床上、最も有用なツールを決定する。
・catastrophizing**(痛みの破局的思考)の評価、**BS-POP**(医師側の評価が含まれており有用)など検討する。**

5．社会的因子の評価について以下のことが討議された。
・学歴、補償の問題、職場の人間関係、家庭の問題、DV **の経験など痛みに影響を与える因子の評価について検討する。**
・日本でこれまでに作成されている問診票を参考にする。

6．QOL **の評価について以下のことが討議された。**

・健康関連 QOL 評価法(SF-36・SF-8)を使用するか、疾患特異的 QOL 評価法を使用するか検討する。

7．脳機能画像による評価について以下のことが討議された。

・fMRI は臨床での実用化までは至っていない。

・magnetic resonance spectroscopy (MRS)、resting state functional MRI (R-fMRI)が候補となる。

8．電気生理学的診断による評価について以下のことが討議された。

- 慢性腰痛の腰部表面筋電図、脳波で慢性疼痛の評価に有用な所見を検討する。
- 他疾患に対する有用な評価法がないので、現時点では、慢性腰痛の評価でよいのではないか。

9．慢性疼痛の多面的評価システムの構築について以下のことが討議された。

- 初年度から 2 年目にかけて多面的評価システムの構築を行う。
- 各班で、上記事項を相談して決定する。

II．今後の予定

次回の班会議の候補日について、各研究者にメールで連絡し、参加可能者が最も多い日程で次回の班会議を調整する。